令和４年度
みやぎ教育の日推進大会

講演録・実践発表記録

令和４年11月

みやぎ教育の日推進協議会

はじめに

みやぎ教育の日推進協議会
会 長　**髙　橋　幹　三**

このごろ、家庭・仲間・地域の人々等で子どもの教育の在り方、生涯学習について考え、話し合い、夢を語る機会が少なくなってきていると感じています。協議会では、11月１日の「みやぎ教育の日」、11月の「教育月間」を通して、こうした機会を増やしていきたいと考えています。

これまで、毎年11月１日に「みやぎ教育の日推進大会」を開催してきましたが、コロナ感染拡大等により、令和２、３、４年度と大会を中止といたしました。

この間、令和２年度には「資料 みやぎ教育の日」を、令和３年度には「講演録」の小冊子を作成し関係各位にお届けしました。本年度も「講演録・実践発表記録」の小冊子を作成し、関係各位にお届けすることとなりました。

小冊子の作成に当たり、大会での講演や実践発表をお願いした前大河原町教育委員会 教育長 齋　一志 様、元宮城教育大学 防災教育研修機構 特任教授 千田 康典 様には、ご理解とご協力を賜りましたことに心より御礼を申し上げます。

また、協議会は構成団体からの負担金に加えて、一般財団法人宮城教育振興会様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会宮城支部様から多大なる財政的な支援をいただいて運営しております。公的な補助金に頼らず独自の財源での運営は今も変わりありません。両法人様および構成団体に心より感謝申し上げる次第です。

この小冊子には、大河原町の学力向上に向けた様々なチャレンジと3.11東日本大震災から学んだことを防災教育として生かした実践が掲載されています。どうぞご一読いただきまして、明日の宮城を担う子供たちのために、参考にしていただければ幸いです。

目次

講演 …… 1
「チャレンジ大河原」～暗唱、読書、学力テスト、算チャレ～
前大河原町教育委員会 教育長　齋　一　志

実践発表 …… 8
「東日本大震災からの教訓を伝える」
元宮城教育大学 防災教育研修機構 特任教授　千　田　康　典

講演

「チャレンジ大河原」～暗唱、読書、学力テスト、算チャレ～

前大河原町教育委員会 教育長　齋　一　志

11月１日の教育の日に、話題提供のつもりで予定しておりました講演が、コロナ禍のため中止となり本稿を書くことになりました。本来は動画等で補うことにしていたところも文字にしましたので、原稿の体を為さない部分が多いのではないかと思います。平にご容赦賜ります。

以下の内容は、私が平成24年11月から平成31年３月までの、６年４か月間、大河原町教育委員会でお世話になったときに、定例の教育委員会や校長会などでお話しさせていただいた項目の中から抜粋したものです。

学力向上に直結するものや学力向上を支えるものなど、いろいろな観点から試行錯誤した結果をもとにまとめてみました。お読みいただき少しでも皆様の参考になれば幸いです。

1　東京オリンピックの金メダリストを学校に呼べる？

これは、1964年の東京オリンピック重量挙げで金メダルを獲得した三宅義信さんを学校に呼ぶという計画である。少ない予算なので不安があった。しかし、生徒に大きな感動や影響を与えるはずだという気持ちが強く、無謀にも三宅さんに直接講演を依頼した。中学生という感性豊かな時期に、金メダリスト三宅さんのお話を直接聞かせることで、必ずや生徒の心に燈を点じ、今後の生き方に大きな示唆を与えるに違いないと思い行動に移した。

(1)　三宅義信氏の同級生との出会い＝「チャンス到来」

1964年の東京オリンピックで、**日本の金メダル第一号**を獲得した三宅義信さんの活躍は、日本人の記憶に焼き付いている。三宅さんは隣の村田町出身で、大河原町の高校で重量挙げを学び、世界に羽ばたいた人である。

その三宅さんの同級生が、私の前に現れ度々交流しているというのである。千載一遇のチャンスが到来した。

「あの三宅さんが村田町公民館に来る」

万難を排し、三宅さんに会わなければ一生悔いが残るという思いが込み上げた。

そして遂に、三宅さんに会えた。「恥をしのぐ」とは、こういう時に遣う言葉であるとその時、頭をよぎった。

「大河原町で中学生に講演をお願いします。でも、予算は７千円しかありません」

三宅さんは「僕の講演は40万円くらいかな？」と言ったが、ダメだとは言わなかった。

返事がなく、そのまま三宅さんは東京に帰った。そして暗雲が漂った。

一週間後、三宅さん本人から教育委員会に電話が来た。その声は、

「地元に貢献したいので、講演を引き受けます」

という明るい声であった。

「ありがとうございます」

大きな声を張り上げ飛び上がって喜んだ。

⑵　大河原町「志教育・三宅義信講演会」対象は大河原中学校、金ケ瀬中学校の生徒。

＜平成26年（2014年）12月２日＞

「一流の人間に会わせたい」「本物に触れさせたい」「心震える感動を味わわせたい」

その一心で、三宅義信さんを大河原町に呼びたかったのだ。そして、実現した。

「練習で泣いて、試合で笑え」

「敵に勝つ前に自分に勝て」

「習慣をつければ目標は達成できる」

三宅さんの一言一言が中学生の心を揺り動かした。生徒の目の輝きや質問する姿を見て、世界の三宅から直接語りかけてもらって本当に良かったと思った。

2　音読・暗唱活動への誘い

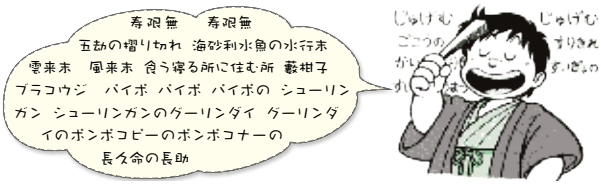
暗唱活動は結果として、「学力向上」に結び付くものだと考え校長会に提案したものである。子供の脳は柔らかく、鍛えればどんどん成長していくものと考えた。しかし、ある委員は「暗唱しても学力向上には結びつかない」と強く反対した。その後、「思考を深める素材を暗唱することで、頭の中に知的財産を増やしていくことができる」という私の考えを何とか理解してもらうことができた。その山を越えた後は、各学校から代表者を選び、編集委員会を組織し、とんとん拍子に進んでいった。

⑴　平成28年２月の校長会で提案

音読、暗唱、群読等を各教科、道徳、特別活動の中に、どの時間にも３分ほど導入したい。「速音読」の効果として、目、口、耳、頭つまり、脳を分割利用し、脳を高速回転させることがねらいである。

効果としては、①頭を覚醒させる。②ものごとの目標意識を持たせる。③まとめを定着させることが考えられる。

齋藤孝の「速読術」によれば、当初は脳を100％使用して対応するが、次第に、脳の数％だけで対応できるようになり、次の次元に入る。また、活力は音声から得られると言い、脳の刺激により得られる。また、プラス思考と言葉という分野では、積極的言葉、感謝の言葉、思いやりのある言葉は、人間関係を整え体調を整え環境を整えると述べている。



「学力向上」に即効薬はない。しかし、「寿限無　寿限無　五劫の摺り切れ……」それを人前で暗唱できたことで「よく暗唱できたね」と誉められ、子どもに大きな喜びと自信が生まれる。そのことで「僕もできるんだ」という喜びと自信となり、他の教科の学習などに発展し、チャレンジする意欲を生み出すものと確信する。

⑵　学力向上の中核は、読解力向上にあり

①　音読（素読）が響く学校（家庭）にしよう

- 「読書百篇　意　自ずから通ず」
- 「門前の小僧　習わぬ経を読む」

日本人は、寺子屋時代から素読を大切に教育を進めてきた。それが、この諺に端的に表現されている。意味理解を大切にしながらも、ただひたすら声を上げて読むことに意義を見

出し、目を向けて行きたい。

「速音読」して脳を高速回転させよう。脳の分割利用とは、目で文字を追い、口で声をだし、耳で音を聞き　頭で意味を理解する。

②　どの教科も暗唱、暗記を取り入れ思考の土台を広げよう

無から思考力、応用力は生まれない。考える素材をどんどん脳に入れることで思考の幅が広がる。

先祖から受け継いだ基礎や土台（各教科）は、有無を言わさず　頭に叩き込む＝（素読、音読）その上で、様々なパターンを組み合わせ、創造的思考力を育てる

③　本の魅力へ開眼させるために、○○先生の推薦する本を紹介し、その理由を子供に伝えてほしい。大好きな○○先生が、ここで涙を流したのかあ……と共感を誘う。○○先生が子供の頃夢中になって読んだ本を自分も読みたいと、読書意欲を高めたい。

④　大河原町の暗唱活動・広報「おおがわら」より

大河原町の広報に、毎月、町内全部の小中学校の暗唱読本「寿限無」（町教委発行）を活用した「暗唱大好き」コーナーが掲載された。これにより、どの学校でも暗唱に力を入れていることが、町民に理解され、家庭の中でも暗唱する姿が見られるようになった。毎日家庭に持ち帰るため、ボロボロになっている寿限無も見られてきた。

町内会から、まとめて「寿限無」の注文が出てきたのもこの頃である。

＜広報「おおがわら」より＞

暗唱大好き　シリーズ⑰　金小編

金ケ瀬小学校では、業前活動の時間を使って暗唱活動に取り組んでいます。高学年の子どもたちの本は使い込まれていて、何度も何度も繰り返し練習した様子が伺えます。また、**「暗唱読本を見なくても諳んじることができ、練習の成果が伺えます。**

子どもたちは、それぞれ自分たちのお気に入りがあり、休み時間や授業の合間などを利用して自分の好きなところを読むなど積極的に活用しています。

練習の成果は、朗読集会で発表します。全校の前で発表するときには、姿勢や声の大きさ、学年ごとに工夫した演出も加えて発表します。今回は、4年生の「がまの油　等でした。

平成29年９月　金ケ瀬小学校

暗唱大好き　大小編

「教室と・・図書室と・・」

朝に3年生のある教室をのぞいてみると、暗唱の真っ最中。1学期の全校暗唱集会で取り組んだ谷川俊太郎の異なる作品に挑戦し、熱心にも楽しげに声に出して読んでいました。このように、**暗唱に取り組む姿が各学級でたくさん見られます。この光景が大小の伝統になってきたと感じました。**

図書室には、入口脇に10月にリニューアルした「暗唱読本コーナー」があります。図書司書の先生にお伺いしたところ、「担任の先生に、今、暗唱に取り組んでいる作品を尋ねて、作者等に関係する著書を展示しています。そして、数か月毎に展示作品を変えています。**暗唱作品や作者に興味をもった子どもたちが、さらに読書へと深い関わりがもてたら・・という思いから始めました」との答えが笑顔と共に返ってきました。**

今後も、学校全体で連携し合って暗唱活動に取り組み、心と頭を鍛えていきます。

平成30年11月　大河原小学校

暗唱大好き　シリーズ㉓　南小編

「暗唱朝会」
～凛々しい姿で～

「きつねうどんをしってるかい。ただのうどんじゃないんだよ。」「ここに川がある。おおらかでやさしい川がある。」

朝の会や国語の時間には、教室から元気な暗唱をする声が聞こえてきます。暗唱読本「寿限無」のなかから「今月の暗唱」を決め、毎日暗唱に取り組んでいます。

また、南小学校では、各学年が年2回、全校の前で発表する「暗唱朝会」を行っていて、これまで4回の暗唱朝会を行ってきました。2学期の終業式には、2年生と5年生が発表しました。2年生は「きつねうどん」と一月の異名、5年生は「祭り」を暗唱しました。どちらの学年も緊張しながらも自信に満ちた表情で、たくさん練習してきたことがよく伝わる素敵な発表でした。

どの学年も、暗唱朝会に向けて練習を重ね、とても素晴らしい発表を披露してくれます。これまで頑張ってきたこと、たくさんの拍手が子どもたちの自信へとつながっています。また、**他の学年の発表を聞くことで、「僕たちも、あんな風に暗唱できるようになりたい」「自分たちも頑張ろう」という憧れや暗唱への意欲にもつながっています。**

平成30年３月　大河原南小学校

暗唱大好き　シリーズ⑳　金中編

本校朝の活動は朝の会後の10分間の朝学習でスタートします。生徒一人一人の学力向上を目指して設定されているものです。チャレンジタイムと称して学習プリントに取り組んだり、朝読書に励んだりと校舎全体を静寂が包む時間です。

ただし、週1回の暗唱の時間だけは別で、ひときわにぎやかな声が聞こえる朝となっています。暗唱に取り組む生徒の声が重なり合って教室の外まで響きわたり、学校に活気があふれます。

半年あまりの活動で、1年生の暗唱カードにもたくさんの合格シールが並ぶようになってきました。和気あいあいとした雰囲気の中で、お互いの暗唱を確認しあう姿はほほえましいものです。

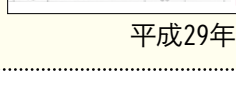
暗唱の活動は、じわじわと生徒の将来に役立つ力をつけることをねらったものです。**日々のわずかな時間の積み重ねが大きな差となることを期待しています。**

平成29年12月　金ケ瀬中学校

暗唱大好き　シリーズ⑭　大中編

本校では、朝の活動として毎週金曜日に暗唱読本に取り組んでいます。今年から「暗唱読本マスターになろう」をテーマに、「暗唱読本カード」を使用しています。始めの3分間は暗唱練習です。自分が選んだ文章を何回も読んで、暗唱できるまでやります。その後、暗唱テストの時間です。友達同士、2人組で暗唱のチェックを行います。そして、合格したらカードにシールを貼っていきます。どこまでできたのかが一目で分かるので、生徒の励みになっているようです。

本校では町外の小学校からの入学生に、入学式で暗唱読本「寿限無」が授与されます。小学校から取り組んできた生徒はだいぶ暗唱できるようになっていますが、初めて暗唱に取り組む生徒も負けてはいません。お互いに刺激し合いながら、切磋琢磨する姿が見られます。大中生全員が「暗唱読本マスター」になれるように、楽しみながら頑張っています。



平成29年６月　大河原中学校

講演

3　行列ができちゃった　図書室

　せっかくある「図書室」をもっと有効に活用はできないか。図書室の有効活用は学力向上に結び付くものと考えている。子供が頻繁に訪れる図書室。子供が楽しみにできる図書室など、各学校での工夫を出し合いたい。

(1)　魅力ある図書室経営……図書司書、司書教諭、図書主任を中心に、子どもが、つい足を向けてしまう、図書行事の企画をしたい。

「つい 足が向いてしまう 図書室」とは……

- 図書室に居るだけで　ワクワクする
- 子供が　今　一番知りたいことが　いっぱいある
- 図書司書が　いつも笑顔で迎えてくれる

(2)　図書管理システムの有効活用

- **個人、学級のデータを公表**　しましょう（多読賞、貸し出し数）
- **データーをグラフ化して掲示**　しましょう

　「図書管理システムは、まるでスーパーのレジのよう」なので、当初は、人気NO１の委員会でした。「ピッ、ピッ」誰さん、確かに受け取りました。レジのおばさんのように、次々に本を処理する姿に、憧れたのでしょう。

「宮城県統計グラフコンクール」小学３、４年生の部（平成29年度）大河原小学校

(3)　高学年図書室「お化け屋敷」に長蛇の列

　大河原小学校の、丸山千佳子校長が、学区内のお寺から、本物の塔婆（心抜き）を借用し、図書室に教師が「お化け屋敷」を作った。耳を疑ったが、本当だった。

　お化けシリーズが人気を集めていたのが、その理由であった。

　ある時、本棚の、おばけコーナーに子どもが立っていたので、どうして立っているか尋ねると、

「係の人が本棚に、お化けの本を戻した瞬間に自分が借りるから」

とこたえた。どうしてもお化けの本が読みたいのでしょう。

おばけコーナーに並ぶ児童

お化け屋敷を見に集まる児童

(4)　**「絵だけ見て　すぐ返しても　いいんだよ」**（図書司書　談）

　私が大河原小学校の校長だった時、１年生がやたらと本を借りるので、図書司書に愚痴をこぼした

「一年生なんか、本を返したかと思えばすぐ新しい本を借りるので、ぜんぜん文字を読んでないんだよねえー。困ったもんだ」

図書司書は、首を横に振ってこたえた。

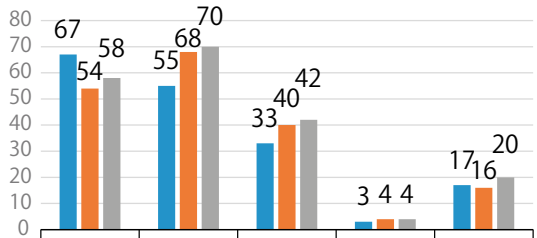
「校長先生。**読まなくてもいいんですよ**。本に親しんでいると、**いつかは本を読むように**

なるんですよ。」

私は、頭をガーンと叩かれたような、大きな衝撃を受けました。「何と浅はかだったのだろう」と。

そうか、親しんでいれば、いつかは本を読むようになると、温かく見守ることが大事なんだなあ。と改めて気づかされました。

一人当たり　読書数



	大河原小	金ヶ瀬小	大河原南小	大河原中	金ヶ瀬中
27年度	67	55	33	3	17
28年度	54	68	40	4	16
29年度	58	70	42	4	20

一人当たりの読書数を公表することでの、読書意識の高揚を期待した。また、各学校での読書対策にも期待した。

学校だよりで読書の目標を知らせる学校、魅力ある図書室に改造する学校、校長先生が子供のころ読んだ本を伝える学校など、一冊でも多く本に親しませるための工夫を凝らす姿が見られるようになった。

＜大河原小学校の貸し出し数の例＞

平成27年度……57,237冊

平成28年度……39,413冊（４月～１月）

学校毎の「一人当たりの読書数を公表する」ことには、ためらいもあった。たくさん読むことも大切であるが、その子供にあった読み方をしていくことも大切だからである。

私のつぶやき。それは「多読をせかすことではない。喜びを共有することである」こんな本も読めたね……。友達にこの本を紹介したら嬉しそうだったね……と。

4　「おおがわらの先人集」

自分たちが生まれ育っている「大河原町」出身者で、世のためになり喜ばれ、感謝されている人の業績を知ることは、将来社会人として生きていくための土台となることであり、郷土愛を育む為欠かすことができないことでもある。

そこで、「おおがわらの先人集」を作成することになった。

宮城県教育委員会は、先人集「未来への架け橋」を作成した。大河原町の高山開治郎が記載され、一目千本桜の由来が記された。郷土愛を育むために、とても素晴らしい教材である。

しかし、大河原町のために尽くした人は、一人だけではない。そこで、大河原町のために尽くした人を一冊の本にして子どもたちに提示すれば、郷土理解、郷土愛が深まるのではないかと考え、本誌を作成することにした。

大河原町のために尽くした人

村井　江三	江戸後期の俳人　大河原の俳句全盛期
尾形　安平	大谷から舟岡までの用水路整備。六沼干拓
高山　開治郎	一目千本桜のもととなる桜の寄贈
尾形　亀之助	尾形安平の孫。東京で詩人として活躍。その後帰郷
佐藤　源十郎	元町長。消防や用水整備に尽力。大小に顕彰碑あり
佐藤　源三郎	町の長老。焼けた大小の再建に尽力１万円の寄附
佐藤　佐太郎	齋藤茂吉に出会い短歌を学ぶ　日本芸術院会員
庄司　一郎	元町長。衆議院議員。大河原町名誉町民
大泉　孝	元上智大学学長。大河原町名誉町民
太田　麻之助	水田裏作の共同化と普及。第１回河北文化賞
三宅　義信	大河原高校出身。重量挙げの金メダリスト
松山　京子	無医村の金ヶ瀬のために尽くした女医
田中　實	菓匠三全の創業者
山家　竹石	大河原町住吉町に在住していた俳人
高橋　与右ヱ門	小島の荒地を開墾し、新百姓を入植させる。
照井　太郎	文治の役で韮神山、千塚で戦う
浅草　宇一郎	会津征討郡参謀世良修三の専横の戒めに貢献

おおがわらの先人集「志を未来に繋ぐ」 販売中

「大河原町で学び、志を立てて郷土の発展のために尽くした多くの先人の姿を、町内の児童生徒に触れさせたい。」

そんな願いから、平成27年4月大河原町教育委員会が本書を刊行しました。一目千本桜の生みの親高山開治郎。東北本線、大河原駅の誘致に尽力した尾形安平。その他にも、松山京子、佐藤佐太郎、庄司一郎、大泉孝、村井江三、高橋与右エ門、田中實、三宅義信、三宅義行、佐藤源三郎、尾形亀之助、太田麻之助、山家竹石、各氏の業績等を短くまとめてあります。

コラムとして、照井太郎、山家幸内、浅草宇一郎、佐藤源十郎をとりあげました。この本を町民の皆様にもご覧いただけるよう下記により頒布しております。

販売窓口：役場3階①窓口 教育総務課　1冊 500円

大河原町の広報に上記の広告を掲示してもらい、広く町民にもお知らせしている。このことで、保護者も含め多くの大人からの理解を深め、子供の学びを支援する言葉がけも期待したい。

5　学力向上へのチャレンジ…「標準学力テスト」を通して

他と比較することへのためらいはある。しかし、自分の殻に閉じ籠もることで自己満足に陥ることは避けたい。全国レベルで比較することで、指導の在り方も評価できる。町費を活用して購入し、分析は業者がする。結果を一覧にし、学校毎に比較して第一に成果を確認し喜びを共有する。第二に課題を分析し改善方法を検討する。

○４月は、当該学年の実態を明確にし、弱点の克服方法を明確にする。

５月～11月は、弱点を克服することに心がける。

12月は、一年間学習した出来栄えを喜び、課題を明確にし３月までに挽回する。

(1)　まず分析をする

◦現状、実態を見つめ、目をそらさない

(2)　成果を讃える

◦よくできた点を見つけ、讃え合い、喜びを共有する

(3)　具体的な対策を立案する

◦なぜ陥没したのか◦陥没点をどんな手立てで克服するか

(4)　学力向上推進委員会で検討する

◦各学校の成績を分析し、対策を述べあう

(5)　校長会で、分析結果について検討する

◦成功事例を共有し、各学校に持ち帰る

※　全国学力学習状況調査結果

平成30年７月24日（火）発表……学校教育専門監　作成資料より

＜小学校＞　※（　）は、全国比

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国語Ａ	65.1 (+2.4)	74.3 (+1.4)	73.8 (+3.8)	79.4 (+6.5)	78.0 (+3.2)	74.0 (+3.3)
国語Ｂ	49.9 (+0.5)	54.8 (−0.7)	67.4 (+2.0)	60.0 (+2.2)	62.0 (+4.5)	58.0 (+3.3)
算数Ａ	81.5 (+4.3)	77.3 (−0.8)	78.9 (+3.7)	81.5 (+3.9)	85.0 (+6.4)	68.0 (+4.5)
算数Ｂ	59.9 (+1.5)	55.5 (−2.7)	48.4 (+3.4)	49.4 (+2.2)	51.0 (+5.1)	56.0 (+4.5)

※国語、算数とも、確実に伸びていることが分かる。特に国語Ｂの「話す、書く、読む」が大変良い。算数Ａ、Ｂは、全部の分野で全国、県を上回っている。特に算数Ａは全国トップの石川県と同じである。

＜中学校＞　※（　）は、全国比

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国語Ａ	76.3 (−0.1)	75.6 (−3.8)	74.5 (−1.3)	75.7 (+0.1)	73.0 (−4.4)	76.0 (−0.1)
国語Ｂ	67.1 (−0.3)	47.6 (−3.4)	63.7 (−2.1)	67.0 (+0.5)	70.0 (−2.2)	64.0 (+2.8)
数学Ａ	61.2 (−2.5)	60.9 (−6.5)	61.4 (−3.0)	59.5 (−2.7)	58.0 (−6.6)	65.0 (−1.1)
数学Ｂ	36.8 (−4.7)	51.1 (−8.7)	36.8 (−4.8)	42.0 (−2.1)	42.0 (−6.1)	47.0 (+0.1)

※国語Ｂは全国トップクラスの福井県と同じである。国語Ａ、数学Ａ、Ｂいずれも全国平均と同等になり、これまでに見られなかった成長が見えてきた。

6　算数チャレンジ、数学オリンピック

宮城県教育委員会で行っている、算数チャレンジ大会を、大河原町独自で開催し、そのチャンピォンチームを、宮城県大会に派遣することにした。

スポーツで競争しているのに、勉強で競争して何が悪いのですか。という発想である。過度な競争は害がある。しかし、この社会は競争社会である。算数で、しかも基本は自由参加の大会を開催し、刺激を与えたいと考えた。入賞の景品も付けた。少なくても教育委員会の職員は燃えていた。校長会も燃えていた。算数、数学部会も燃えていた。ひいき目かも知れないが、私にはそう見えた。

真剣な表情で問題を解く小学生

算数 楽しくチャレンジ

県庁で大会 大河原小が優勝

算数を学ぶ楽しさを味わってもらおうと、県教委は19日、県内の小学生を対象にした初の「算数チャレンジ大会」を県庁講堂で開いた。初代チャンピオンには125点を獲得した大河原町大河原小の「大河原小学校」チームが輝いた。

大会は8月に仙台市内を除く県内8会場で地区予選を実施し、3人一組の計189チームが参加。19日の本選には、地区予選で上位成績を収めた26チームが出場した。思考力や発想力が求められる難問も含め小6レベルの30問（各5点、計150点満点）を1時間で解いた。各チームは3人で分担したり一緒に考えたりしながら問題に挑んだ。

2位に東松島市矢本東小の「たのしみ隊」、3位に白石市白石二小の「二小SK1」が入り、上位3チームにメダルと賞状が贈られた。競技後は問題解説もあり、参加者全員で答え合わせをした。本選の平均点は71・2点だった。

優勝した大河原小6年の茂泉翔太郎君（12）は「問題が解けるとスッキリして達成感があるので、算数が大好き。優勝できてとてもうれしい」と語った。3人は、校長から直接指導を受けて本選に臨んだという。

全国学力テストで、県内の小学生は算数の平均正答率低迷が続く。大会は学習意欲の向上が狙い。

平成27年９月20日　河北新報

おおがわら数学オリンピック

平成29年７月25日（火）

「連立方程式を習っていない、１年生が２位に食い込んだ理由は何だ。」

私は、大河原中学校の岩間孝一校長に聞いた。

「１年生は、問題に連立が出ることを予想し事前に、数学の先生から連立の解き方を学習し、大会に臨んだ」

まるで、飛び級だと思った。凄い１年生がいたもんだ。予想を超えた現象に、とても満足した一日だった。

第１位　過去の栄光チーム（大中２年）……　48点
第２位　大中元気100%チーム（大中１年）…　41点
第３位　カナダに行きたいチーム（大中２年）…34点

7　先手必勝を心がけて

ゲーム・携帯・スマホの使い方が問題となり始めた。問題が大きくなる前に芽を摘む。

明日青のつどい「おおがわら子ども会議」

平成29年１月28日（土）

○児童代表、保護者代表の発表、
　高校生とパネルディスカッション
○各学校独自ルール策定
○大河原宣言　生徒代表と保護者代表の宣言

実践発表

「東日本大震災からの教訓を伝える」

元宮城教育大学 防災教育研修機構 特任教授　　千　田　康　典

「みやぎ教育の日」にあたり、宮城県内の教育関係者の皆様に私のつたない取り組みを紹介する機会をいただき誠にありがとうございます。

私は、栗原市の小学校で定年退職後、昨年４月まで宮城教育大学の防災教育研修機構で５年間、防災教育に携わりました。大学では、宮城教育大学の学生だけでなく全国の教育系大学の学生、または現職教員、教育委員会防災担当者等を対象に、「東日本大震災被災地」や「2019年台風19号被災地」での防災研修会を実施しました。また、全国から多くの学生募り、東日本大震災被災地の小中学校へ学習支援ボランティアとして派遣する仕事を行いました。

今回は、今年の８月に大阪府の中学校の先生方とその家族が来県した時の被災地防災研修会と被災地の方々のお話や様子を記録した映像集「みんなで作る防災教育」を紹介させていただきます。

1　大阪府の先生方と家族の被災地防災研修会

研修会は石巻市震災遺構大川小学校、南三陸町立戸倉小学校跡地、民間震災遺構高野会館、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、大島のカキ養殖業者等をめぐりながら防災研修会を行いました。

案内した被災地の中から、南三陸町立戸倉小学校の事例を紹介したいと思います。戸倉小学校の校舎は、海岸から300mの所にあり３階建てでした。学校の防災計画では地震があったら校舎から10分程かかる海抜20mの宇津野高台に避難することが決まっていました。東日本大震災の二年前に赴任した校長先生から「防災計画には、高台避難とあるが10分以内に津波が来るという予想もある。校舎屋上への避難も考えた方が良いのではないか」という提案がなされましたが、地元出身の教員は高台への避難を強く主張し、話合いは大震災の直前まで続けられ、最後は、職員で決を採るということになりました。結果は、ほぼ同数になり、「地震が起きた時に校長先生が避難場所を決定する」という事になりました。その直後に東日本大震災が起こり、校長先生の判断のもと、70数名の児童と教員は躊躇なく海抜20mの高台に避難しました。50数分後に到来した津波は避難した高台にも押し寄せ、より高い神社に避難して子供たちと教員は助かりました。津波は海抜23mまで到達して、校舎は水没、神社は小さな島のようになったのですが、多くの命が救われました。先生方の真摯な話合いがあったからこその結果だと思います。

当時の戸倉小学校の校舎は当然のことながら現在は残ってはいませんが、先生方や子どもたちには戸倉小学校跡地、宇津野高台を訪れてほしいと思います。実際に津波が来た場所に立ち、そこで起こった事実から命を守るための心構えについて多くのことを考え、学ぶことができると考えます。戸倉地区の近くには「宮城県志津川自然の家」があり、様々な体験活動等が行われております。是非、研

修プログラムの中に戸倉小学校跡地の視察・研修を入れてみてはいかがでしょうか。

【研修会に参加した教員の感想】

今まで報道等を通して、被災地がどんな状態になっていたのか、少しは分かっていたつもりでいました。けれど実際に宮城に足を運んでみて、地震や津波の被害は自分の想像をはるかに超えていました。大川小、戸倉小、高野会館、どの場所に行っても、遠くに見える海がその場所まで来たことが、信じられませんでした。

報道や数字で知ることと、自分の目で見ることの違いの大きさを今までで一番感じる研修でした。今回案内していただいた場所と、海沿いの何もなくなってしまった景色を重ね合わせ、海沿いに暮らしていた方々のことを幾度となく考えました。伝承館で体験を語ってくださった方々は、被災された方々のごく一部であり、実際にはそこに暮らしていた人の数だけつらい経験があったのだということを心にとどめておきたいと思います。

今回、宮城を訪れたことで、実際に被害が起きた時に「まさかこんなことになるなんて」では許されないことがあることを思い知りました。大阪にも、上町断層があります。また、近い将来には、南海トラフ地震も高い確率で発生するといわれています。まずは、自分たちが暮らす地域の特徴や、その地域が抱える危険性をよく知り、災害に備えておくことが大切だと強く感じました。この後、研修会に一緒に参加した４歳の息子と堺市の防災センターで地震体験をしてきました。「宮城もこんなのが来たの？」としきりに聞いてきました。大人も子どもも多くのことを学び、感じ、考えさせられた研修でした。

【３人の子どもたちと研修会に参加した教員の感想（抜粋）】

中学生の長男は、１日目の就寝前に「言葉にならない、けど一生忘れたらあかん１日やった」と話していました。また、子どもたちは、今でも宮城での防災研修のことを話してくれます。それほど宮城での時間は濃密だったのだと思います。

2　映像集「みんなで作る防災教育」

私は、宮城や福島の被災地の方々が当時の様子やその後の復興の様子を語る映像を収録し、「みんなで作る防災教育」というタイトルでインターネット上に公開しています。

「みんなで作る防災教育」の映像の一部を紹介いたします。東京書籍の小学校６年生道徳の教科書に掲載されている、気仙沼大島の小さな連絡船「ひまわり」の菅原船長のお話も収録してあります。大津波から連絡船「ひまわり」と一緒に沖に避難したのち震災から半年間、島と本土を結ぶ島民の足となった時の様々な経験と思いが語られています。また、震災後数年して小学校の新任校長に任命された福島県の校長先生のお話も収録してあります。当時、赴任先の学校の児童は放射線から避難しており在籍児童数は、０人でした。所属教員は県内数校に派遣され、集まるのは年に数回でした。そのような状況のなかで校長先生は、被災した校舎や校庭の整備を行い、学校再開に備えていたそうです。そんな校長先生の話は現職の先生方に是非視聴していただきたいと思います。

映像集は災害の悲惨さだけではなくそこから立ち上がる人間の強さ、優しさそして自然の恵み、すばらしさも感じ取られるものになっています。映像はパソコンで「みんなで作る防災教育」と検索して、ホーム画面からパスワードを取得して、ダウンロード後、編集して自由に使うことができます。活用していただければ幸いです。

資料（大阪府の先生方と家族の被災地防災研修会の資料から抜粋）

令和４年８月２４日（水）
大阪府の先生方と子どもたち

３１１東日本大震災から学ぶこと

元宮城教育大学　防災教育研修機構
特任教授　千田　康典

1

東日本大震災　H23東北地方太平洋沖地震
平成２３年３月１１日　１４時４６分

震度	７	栗原市
震度	６強	宮城県　仙台市宮城野区　大崎市 登米市　他７市町
		福島県　白河市他８市町
		茨城県・栃木県の８市町
大津波		最大遡上高　４０メートル
犠牲者		１５，９００人
行方不明者		２，５２３人

2

３１１　東日本大震災の時の記憶　１

大川小学校の避難を考える

3

大川小学校の中庭と校舎です。花壇を見るとマリーゴールドや葉ボタンが見えます。校舎の中もきれいになっています。昨年７月の公開前は、犠牲になった子どもたちや教職員のご遺族が月に何度か校舎を訪れ、掃除をしたり、花壇や校庭の整備をしたりしているおかげです。また、全国から児童・生徒・学生・一般の方々がボランティアに訪れていました。公開後も校庭の整備にボランティアの方々が来ているそうです。

4

この日は、被災地に行って勉強したいという3・4年生の学生と行ったのですが、茨城県の高校の野球部の部員がきてボランティアで校舎の清掃活動を行っていました。当時の様子を説明をしてくださったのは、ご遺族の方です。

5

大川小学校でのできごと

- 学校管理下での犠牲
- 児童　７４名（内行方不明４名）
- 教員　１０名
- 学校から海は約４ｋｍ
- 学校は市の指定避難所
- 地震発生（１４：４６）から約５０分間校庭に待避
- 避難開始後、１分で北上川の堤防を超えてきた津波に襲われた

6

裁判では

- 事前の防災についての取り組みに不備
- 大きな津波を予想した避難マニュアルが無い
- 津波を予想した避難訓練をしていない
- 数年、保護者への児童引き渡し訓練が行われていない

など、学校の責任を認める判決

7

当日の状況

- 高学年の児童は校舎を出ると裏山に登ったが
  点呼のために校庭に呼び戻された
- 山の木が倒れている　裏山は崩れる可能性がある危険だ
  プレート型地震　　直下地震（断層地震）の違い

- 児童を迎えに来た保護者は、大津波警報が出ているので早く高いところに避難するように先生方に言っていた

8

なぜ避難が遅れたのか

- 津波の避難を想定していなかった防災マニュアル
- 「正常性バイアス」
  不安を抱えながらも、海岸から４キロメートル
  ここまで津波は来たことがない
- 多くの地元の方々も校庭に避難していた
- 地域の方々と学校の話し合い

- 避難に動き出すのが津波が来る１分前になった

9

大川小学校の裏山にあるコンクリートのたたきです。ここに学生や先生方を案内すると震災前にここはあったのですかとよく聞かれます。震災前にあり子どもたちもここから風景を写生していたとのことです。

10

児童・生徒の命を守るのは教員

大川小学校児童のご遺族の言葉

- 大川小学校の周りには、高いところがあった
- そういうところがあっても高さだけでは命は救えない
- そこに避難する決断をする人がいなければ命は救えない

11

３１１　東日本大震災の時の記憶　２

戸倉小学校の避難を考える

12

戸倉小学校校舎　海岸から３００ｍ　海抜数メートル

13

戸倉小 避難場所の決定までの二年間の話し合い

- 校舎は海岸から３００m、3階建て
- 地震が来たら校舎から10分かかる20mの高台に避難
- 地震の2年前に赴任した校長、避難計画には高台避難とあるが10分以内に津波が来るという予想もある　校舎屋上避難を提案
- 地元出身の教員は高台避難を強く主張、2年間会議で話し合った
- 最後は決を採り、結果はほぼ同数
- 地震が起きた場合、避難場所は校長が判断することになった
- 直後に東日本大震災、児童と教員は高台に避難した
- 高台も津波に襲われたが五十鈴神社に避難して助かった

14

宇津野高台　校舎から１０数分　児童が先生方に引率され避難した高台です。右側のこんもり茂った中に五十鈴神社があります。

15

現在の宇津野高台　津波は左上の赤い鳥居、２３ｍまで襲来しました。

16

津波に襲われる戸倉小学校　戸倉中学校から撮影

17

津波にのまれようとしている体育館と校舎、津波は屋上の丸い給水塔の上まで到達
阿部一郎氏　撮影

18

３月１１日　１５時３５分　宇津野高台　左奥の木立の上が五十鈴神社
阿部一郎氏　撮影

19

戸倉小学校から学ぶ

- 学校全体で防災について、真剣に話し合っていた
- リスクを自分ごととして捉えていた地元出身の先生の行動
- 屋上か高台か、決を採ることになった時も同僚職員に根回し
- 意見交換できる職場環境を作った管理職
- これはと思うことを指摘する姿勢
- 部下の意見を聞くことができる管理職

20

津波の犠牲者が多かった地域

- 今までここまで津波が来たことはなかった
- ここは大丈夫と思って避難しなかった海から遠く離れた方が多く犠牲になった

津波からの避難

- できるだけ早く
- できるだけ海岸から遠くに
- できるだけ高いところに
- より安全なところに避難できる経路のあるところに
- 逃げたら安全が確認されるまで戻らない

21

学ばなければならないこと

- 我々教員は子どもたちの命を守らなければならない
- そのときできる最善のことを行わなければならない
- 少しでも不安があったらより安全なところに避難させる
- いろいろな意見が出たときには、最善の策を

何かあったときには遅い
何もなければ、笑顔で戻れる

22

「みんなで作る防災教育」

ネット配信しています。自由に見ること、ダウンロードして使うことができます。ご活用ください。

23

３１１東日本大震災から学ぶこと

宮城県にお出でいただきありがとうございました

24

令和４年度　みやぎ教育の日・みやぎ教育月間
広報ポスター制作者のコメント

今年転勤してきた涌谷町は「風景遺産」のような町です。この町の風景を素材にして、現代の教育をテーマにポスターを作りたいと思いました。

在任の涌谷中学校では、言語能力の育成をテーマに研究しつつ、生徒一人一人のiPadをいかに活用するかという点でも模索しています。そこで美術部の生徒にiPadを持って「現代の二宮金次郎」というお題でポーズを取ってもらいました。時代に合わないという理由から今では学校にも見られなくなった二宮金次郎像ですが、勤勉・勤労・徳の高さなどを見直すべきところもあると思います。現代の二宮金次郎のシルエットには「ゆめみるゆうきあすへのちから」という文字が散らしてあります。現代の子どもは夢を見るのも勇気がいるのです。勇気をもって夢を見ることで、それが原動力になるということを伝えたいと考えています。

涌谷町立涌谷中学校
教諭　菅原由美子

お　わ　り　に

推進協議会では毎年、教育の日「啓発ポスター」を作成して学校や教育関係機関にお届けしてきました。本年度のポスターも校舎内に掲示され、多くの子どもたちの目に触れたことと思います。

「みやぎ教育の日推進大会」は、以下の運動推進目標を掲げ11月１日に開催してきましたが、残念ながら新型コロナ感染拡大等により、本年度を含め連続３回中止となりました。

1　教育尊重の機運を高めよう
2　家庭・学校・地域の教育力を高めよう
3　安心と潤いを育む環境づくりに努めよう

今後も、この運動推進目標を大切にして「みやぎ教育の日推進大会」の一層の充実を目指していきたいと思います。

コロナ禍ではありますが、本年度も教育について考える機会を少しでも増やしたく小冊子を作成しましたので、皆様から遠慮なくご指摘、ご教示をいただければと思います。

なお、本年度の講演録・実践発表記録は、宮城県教育委員会ホームページ「みやぎ教育の日」に掲載されダウンロードもできます。どうぞご活用いただければ幸いです。

2022（令和４）年11月

令和４年度 みやぎ教育の日推進大会
講演録・実践発表記録

発行日　令和４年11月１日
発行者　みやぎ教育の日推進協議会　会長　髙橋　幹三
事務局　仙台市青葉区花京院1-4-8-205 一般財団法人宮城教育振興会内
印　刷　印刷ショップ クドウコピー

11月1日　みやぎ教育の日
11月　みやぎ教育月間

「みやぎ教育の日を定める条例」が平成17年３月に制定されました。
宮城県民ひとり一人が健全な自立的人間であるか否かを反省し、また自覚するとともに家庭・仲間・地域の人々等で、明日の宮城を担う子どもの教育の在り方、及び生涯学習について考え、話し合い、夢を語る機会として11月１日を「みやぎ教育の日」、11月を「みやぎ教育月間」と称しています。